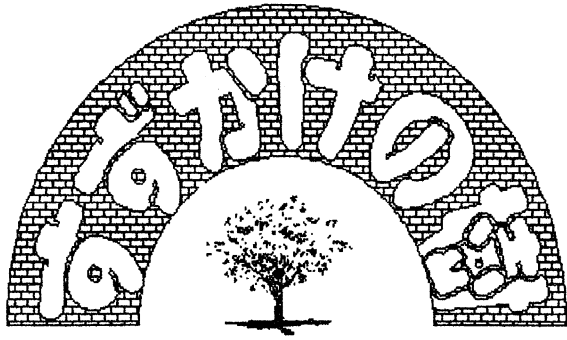




2018、9、15発行 No.142
社会福祉法人 すすかけ福祉会

障害者生活介護事業所「すすかけ共同作業所」

小牧市南外山間島15-1 TEL0568-71-3644 Fax71-3649

障害者生活介護事業所「さらん」

小牧市小針2丁目356-2 TEL・Fax0568-75-3991

障害者共同生活援助事業所「すすかけホームそよ風」「虹の家」

小牧市南外山間81 TEL・Fax 0568-76-8151

障害者共同生活援助事業所「すすかけホーム青空」「太陽」

小牧市小針2丁目356-1 TEL・Fax 0568-75-2888

障害者共同生活援助事業所「すすかけホーム大地」「すばる」

小牧市小針2丁目363-1 TEL・Fax 0568-75-2888

障害者居宅介護事業所「ヘルパーステーションとなり」

小牧市小針2丁目356-1 TEL0568-90-0111 Fax0568-90-0112

「ヨウキュウシヨ」…今回はさらんの仲間達が頑張りました！

仲間達の夏のボーナスが支給されました。夏冬のボーナスは作業所ではたらく仲間達にとって区切であり、大きなステーションとなっています。今回も様々なドラマがありました。

半年間の儲けをさかのぼって学習しました。すすかけ1階では作業手当3000円の人を例えとして〇カ月分だと1000円札何枚というように示し、思いを出し合いました。沢山欲しい人、次が心配だから今回は押えておこうという意思の人、意見が分かれました。何度も論議を重ねるうちに、冬のボーナスに痛みが出ないよう1カ月分という意見が主流になりましたが、あるベテランの仲間が「どうしても1.5か月は欲しい。」と主張し、なかなかまとまりません。若い頃のうちにバリバリ働けず作業手当が下がってしまった人が少しでも多くと望む気持ちは皆も痛いほど分かります。最後には多数派の意見で要求額は1カ月分に決定することになりましたが、複雑な感情が残ったようです…

さて、次は要求書です。いつもすすかけの仲間が作成していますが、今回はさらんの仲間が書くことと名乗りを上げました。初めての事で少し不安だけど友達と一緒になら…とやる気です。そしてつられるように「ジ、カク…」と声を上げてくれた

人がいました。身体的にも重い障害を持つ仲間です。二人は一生懸命出来る範囲で職員に手伝ってもらって字を書き、施設長に要求書を提出しました。そしてボーナス交渉当日。皆が一堂に会し日頃頑張っていることを発表。そしていよいよ要求書の朗読です。シーンとした中マイクを当てられ出番です。〇〇さんどうぞ「…」「いちにのさん！」「…」「いいよ、練習通りに「…」」。あれだけ練習では「ヨウキュウシヨ」と上手に言っていたのに、どうしても声が出ません。彼の気持ちを引き継いで職員が代読しました。そして本文はもう一名の仲間が初めてとは思えない位堂々と発表し皆を驚かせました。その対照的な姿がまた新鮮で、印象深いボーナス交渉になりました。本当によく頑張ったね。

7月25日、念願のボーナスを手にした仲間たち。毎日一生懸命仕事をしているので、もう少し沢山欲しいところですが、お金を儲けるのはなかなか厳しいものです。それでも誇り高いボーナス！みなさんお疲れ様でした！（職員 幅田）



ホーム納涼祭したよ！6ホームみんなで食事！花火！

『よそのホームと交流したい』『○○さん元気やるか？』ある仲間の発言がきっかけで、8月9日に全ホーム合同の交流会をしました。新ホームすばる、大地と太陽、青空にそよ風と虹の家の仲間達が合流し各ホームのシャッフルメンバーと一緒に夕飯を食べて交流しました。そよ風の吉川さんは以前すずかけで一緒だった東さんの元気な声を聞いて『そういえば昔よく聞いたとった声がするなあ』と昔を懐かしみながら交流していました。その後はジュースで乾杯し、スイカとお菓子を食べてのんびり。最後にみんなで外に出て、花火を見たよ！

(ホーム職員 加藤和明)



ホーム家族懇談会

を実施しました！

2つの新ホームが開所して約4か月が経ちました。旧ホームもメンバーが入れ替わりスタートしたばかりの頃は毎日が試行錯誤の繰り返しでした。それでも少しずつ「生活をしている」感というものが出てきています。そんな今のホームの様子を家族の方々にお伝えしようと懇談会を開催しました。

まず、新規の仲間も含め大きな混乱はなかったことを報告。今回初めてホームで暮らす仲間たちは昨年からシヨートステイなどを利用して、少しずつ練習を進めてきたこともありスムーズに生活をスタートさせています。よく知る仲間たちがいること、時間をかけてゆっくりと準備を行ってきたことの成果だと思えます。

そして新たな生活を受け入れるため頑張っている仲間の姿を交流しました。自閉症の若い仲間がホームに挑戦していますが、祭日があり予定が変更された時に、自分の思いと違って混乱してしまいました。あれこれ葛藤しながらも、職員が丁寧に説明すると気持ちを整え、自分を納得させようとする様子が見て取れました。ホームの生活を自分の中に落とし込んでいく作業を進めている段階の

ようです。この作業は時間と自身の大きなパワーが必要です。ゆっくり見守っていかうと思っています。この話を聞いていて先輩の保護者の方から「そういえばうちの子もそんなことをやってたわ。カバンを隠したりもしてね。でも大丈夫！今はホーム大好きだから」と共感と応援の言葉をいただきました。そんなホームの先輩達も引っ越しをして新しい環境、メンバーでの生活が始まっています。しばらくは混乱もあるだろうと想定していましたが、予想に反して混乱する事なく普通に生活しているように見えます。多少の変化があっても動じなく暮らしていける。それは今まで培った生活力のたまものですね。すこいなあ、と改めて気づかされました。

家族の皆さんからは「ホームで今後の生活スタイルや医療との連携等をしっかりと作って欲しい」「外出や外食等、ごく当たり前の生活を実現させて欲しい」等の願いが出されました。「帰りに買い物に寄ってホームへ」「ご飯を食べてからホームへ」など考えるとワクワクする話も！すずかけにはヘルパー事業所もあるので、連携し実現できるような模索していきたいです。そのうち「今日は帰りに一杯飲んでいくからご飯いらないよ！」なんて連絡が入る日が来るといいね。

(ホーム施設長 光岡)

ゆるれることをくぐって



すずかけでは、多くの職員が毎年2月に滋賀県大津市で行われる人間発達研究所主催の「人間発達講座」に参加しています。そこで話された「基調報告『発達保障の課題2018』」の内容を少し紹介したいと思います。

「人は、育ちの中でいくつかの節目を越えながら、ものの見方、考え方を塗り替え、自分づくりをすすめていく。節目を乗り越えていこうとするときに『ゆるれ』る。しかし、その『ゆるれ』をゆくりたつぷり主体的にくぐった経験がある人とそうでない人との間に自ずと『おとなになり階段を上るなかで』つまずく様相が変わってしまうことが見られる。『ゆるれ』を乗り越えていく時に、そこに何が、どういう保育や教育や支援が大切になるのだろうか。

子どもの姿や障害のある人とのかわりや職場の中で、『ゆるれ』つつも、そのなかで自分が支えられていると感じる体験（の量）が保障されているか、すべての感覚を通して体感・共有することがじゆうぶんできているかどうか、集団の中で失敗することや『ゆるれ』ることを保障されてきているかどうか、『ゆるれ』ることを待ってくれるおとなの存在があ

ったかどうか、そんな視点から『ひととしていきる』ことをゆたかにすすめるときに大切にしたいことを考える。」

事例で、4歳児の創作活動の様子や、口喧嘩し続ける5歳児の様子が挙げられました。保育者が「こうしよう」という目的のためだけに創作するのではなく、与えられたモデルやルールにあわせて行動すること自体を、自分の思いをくぐらせて上で選ぶ、という経験が大切という話でした。また「ゆれて葛藤し、考える」という4歳児で大切な経験をしっかりと積み上げてきたからこそ、自分の思いを言葉にし、お互いにぶつけ合える姿がある、というようなら歳児の口喧嘩の事例でした。この事例では、保育者は仲裁に入らず見守り続けていたそうです。

この部分をもとに部署の会議で学習会をしました。仲間たちを見ていると、職員なら仲裁に入りたくなる場面があります。しかし、この事例で言う「見守り続ける『間』」が自分たちの実践の中にあるかどうかという事を、新人職員を含めた職員集団で考えるきっかけになったのではないかと思います。「どこまで仲裁するのか、しないのか、ただ見守っていればいいのか、そこに意図を持っていたか、発達年齢や生活年齢が違ふことでの難しさがあるのではないか」などと悩むことも

あります。でもそうやって職員もゆれながら、全体で自分たちの姿を振り返り、話し合い、学びながら実践を進めていくということが大切なのだと思います。また紹介されているのは子供さんの事例ですが、成人期の仲間達の積み重ねてきた年齢の重みを改めて再確認していきたいと思います。（職員 森下）

新人職員自己紹介

昨年10月からさらんて勤務している鈴木竜介と申します。日中を中心として、日々の業務を覚え、毎日仲間と向き合い葛藤しながらも仕事をしています。高齢者施設で介護の仕事をしていたということもあり、違いや難しさを感じています。

コミュニケーションの取り方の難しさを感じることもありますが、仲間同士が会話の中でお互いを気遣う場面を見るとほほえましく思います。そして、少しずつではありませんが、ひとりひとりの仲間の特徴やその人なりの表現が見えてきたかなと思います。まだ分からないこともあり、何かとご迷惑をおかけすることありますが、成長できるよう努力していきますので

よろしくお願ひします。（職員 鈴木）

「コアラ見た!」「かき氷食べたよ」

〜東山動物園へ行きました〜

少し前になりますが、5月6月、すずかけ・さらんそれぞれの現場で日帰り旅行へ行きました。少し暑かったけれど目の前で見る象やキリンは迫力がありました。コアラは起きていてくれて仲間たち、盛り上がっていましたよ。

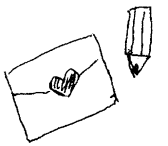
さらんの仲間は自分のホームへお土産のお菓子を買って帰っていました。友達思いだね。すずかけは動物を見た後お茶タイム。かき氷を「メロン」と選んだものの、食べてみたら冷たすぎる!少し食べて残りは職員に食べさせていました(笑)色々な事があって楽しい日帰り旅行となりました♪

さらんのエアコン新調しました!

今年の夏は暑かったですね。すずかけではお茶ポットを各フロアに置いて水分補給に努めました。さらんではエアコンが壊れてしまい一部屋で過ごす時期がありました。現在新たに取り付けていただき、快適に過ごしています。「すずかけの明日をつくる会」より資金援助をしていただきました。ありがとうございます。

「お返事来るかな?」

〜手紙のとりくみさらん〜



さらんの森田さん、堀尾さんが今年度、手紙の取り組みをしています。大好きな人への愛?のこもったメッセージを職員と一緒に書きます。返事が来ると嬉しくて♡ずっと握っていたり、さらんではポーカーフェイスでも、家に帰って「テガミテガミ」と報告したり。青年らしい少し照れた様子がなかなか素敵です。次は誰に書こうかな?

タイコだ!おとりだ!音楽のとりくみ

今年の夏も音楽活動のメインで、太鼓と盆踊りをしました。



小さな太鼓でバチだけ本物でしたが、とても響きます。ハッピを着て叩く人、鐘を鳴らしてお囃子をする係りの人。そして踊る人。いろんな出番があって盛り上がりしました。子供の頃はよく行っていた夏祭り。今は行く機会は少ないかもしれませんが、雰囲気は少し味わえたかな…

〜編集後記〜

今年の夏は特別に暑かったですね。大雨、台風、地震などの自然災害も頻発しており、怖いですね。被災地の方々、心からお見舞い申し上げます

年度当初ホームが開所したり職員も代わって少し混乱もありましたが、今は落ち着きを取り戻してきました。新人職員も慣れてきて、さすが若いな、体が軽いな、と頼もしく思います。でも何かが不安:私達が忙しそうで、聞きたい事も聞けずにいるかなあ?楽しく働けてるかなあ??

私が入職した頃もきつと先輩職員は忙しかったはず。でも仲間の面白かった姿、困った事、感激した事などを語り合ってきました。そんな日々の積み重ねが、人とつながるこの仕事の魅力を支えられていることを忘れてしまったり弱さが認められなくなってしまうがち。これは私自身の反省でもあります。でも本当は足りないものを補い合って仕事をしてますよね。職員不足という逆境を諦めず、「こんなやつてみよう!」と冒険して、仲間と一緒に笑ったり要求を実現できた喜びを共有していけたら、もっと強く繋がっていけるのではないのでしょうか。そうして未来につながる人が育っていったらいいな...と思います。(H)